

都市再生整備計画

やまぐち
山口地区

さが 佐賀県 こうほくまち 江北町

平成16年5月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	佐賀県	市町村名	江北町	地区名	山口地区	面積	73.6 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 18 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 18 年度				

目標

大目標： 駅南地区を町活性化の核とし、駅南広場を整備することにより広域交通の拠点・交通結節点の町としての利便性向上を図り、各種公共施設との連携及び地域住民と一体となったまちづくりにより良好な住宅地の誘導など住み良い生活空間を創る。

目標1 駅南地区を町活性化の核として、住み良い優良な住宅地としての誘導を図り、定住促進を図る。

目標2 駅南広場の交通結節機能の充実により、交通渋滞の解消、安全性の確保、及び歩行者の快適性の向上を図る。

目標3 駅南地区において開催するイベント等や、交流センター、地場産品直売所等の公共施設との連携により、来町者をはじめとする利用者の増加を図り、駅南地区周辺の賑わいを創出する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・本町は以前は炭鉱の町として栄え、町全体が賑わいをみせておりましたが、昭和44年の杵島炭鉱閉山に伴い人口は激減し、過疎化が進むという深刻な状況にありました。

・その後は、昭和56年に国道34号江北バイパスの一部開通、平成7年には、六角川を跨ぎ隣接町(福富町)とに新渡大橋が新設され、平成11年には江北バイパスの全線開通。更に佐賀空港へのアクセス道路として県道江北芦刈線が着工するなど、この間の道路網の整備に伴い、バイパス沿いには大型商業施設が建ち並び、その背後地には民間企業による住宅地の開発も進み、駅南地区は人口、世帯数、共に年々増加し続けるなど町の姿は大きく変化してきました。

・本町は、JR長崎本線・佐世保線の分岐点である肥前山口駅を有しており、近年の道路網の整備や駅周辺の開発の進展に伴い、駅利用者の利便性の向上を図る必要が生じ、従来、駅北口からのみの利用であったが、平成2年に駅南北に通路橋を設け、駅利用者の駅南北双方からの利用を可能にしました。また、平成15年にはこの連絡通路を利用し、南口からの利用者の更なる利便性向上を図るため、駅舎及び改札口が橋上化され、この工事に伴い高齢者や身体的弱者に対応するためのエレベータ設置などを行ってきました。

・こうした道路網の整備や駅周辺という立地条件の良さから、駅南地区は、人口、世帯数が急速に増加し、また沿道利用型商業施設の集積も進み、町の活性化を図る上で、駅周辺整備は喫緊の課題となっております。このような町の急激な変化に対応して、無秩序な開発を抑制するためにも住民参加型による当地区のまちづくりの機運を盛り上げていく必要があります。

課題

当地区では、急激な商業施設の集積や宅地開発が進展する中で、駅周辺の交通結節機能の整備と合わせて、乱開発を防止し、安全で快適なまちづくりに向けた周辺住民の気運の醸成を図ることが喫緊の課題となっている。

・急激な商業施設の集積や宅地開発が進展する中で、無秩序な開発を抑制するため、住民の意識の啓発を図り、良好な住環境の誘導を図る必要がある。

・朝夕の通勤・通学時間帯には送迎車が現道路に待機しているなど、車輛通行の支障となり危険な状態にある為、その改善の必要がある。

・自転車等についても、歩道上への迷惑駐輪などがあり、歩行者への安全面及び、魅力ある駅南空間の形成を考える上でも改善の必要がある。

・平成15年にオープンした交流センターの利活用を促進し、交流人口の増加による賑わいの創出を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

交通の要衝の地としての地理的優位性を活かし、駅周辺での交通結節機能の充実を図ることにより広域交通拠点の町として産業振興等夢と活力にあふれた駅周辺整備を行うとともに、地域住民と一体となってまちづくりを推進していくため、地区の地権者等からなる「まちづくり協議会」を発足させ、地域住民自ら考え自ら行動するまちづくりを目指す。

・第4次江北町総合計画では、まちづくり戦略として駅周辺における交通結節機能の充実、広域交流拠点施設の整備は本町のこれからのまちづくりの基盤として重要な位置付けにある。

・江北町住宅マスタープランでは、調和のとれた土地利用の推進や新市街地の形成等を図り、人々が行き交う広域交流空間の形成を図る地区として位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	目標年度
				基準年度		
駅南地区の定住者数	人	駅南地区における定住促進に伴う人口の増加数	駅周辺整備により、利便性の向上、住み良い生活空間が形成されたことに伴う人口の増加を見込む。	2,600	2,700	平成18年度
駅南広場の交通混雑状況	台	駅南利用者による路上への駐停車車両台数確認	道路整備に伴う交通混雑を2年後には解消。	15	0	平成18年度
駐輪場利用自転車の状況	台	一般歩道等駐輪場以外に置いてある自転車の台数	駐輪場の増設により一般歩道等への迷惑駐輪の解消による安全性の確保。	85	0	平成18年度
公共施設の利用者数	人	ふれあい交流センター、直売所の利用者数	周辺公共施設との連携による来町者を含めた施設利用者の増加による町の中心部としての活性化を図る。	50,000	80,000	平成18年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(地域住民と一体となった将来ビジョンの構想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来ビジョン構想の一環として、「まちづくり協議会」の設置などにより、今後の地区のあり方や、現在の地区における諸問題について、地区住民が相互に話し合い、まちづくりに対する意識を高めることにより、建築協定等の導入など今後の具体的な推進方策の検討を行い、良好な環境による住み良いまちづくりを推進していく。 	<p>まちづくり活動推進事業(提案事業/まちづくり協議会活動に係る費用等)</p>
<p>整備方針2(交通環境の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路へのはみ出し駐車や歩道上の迷惑駐輪等、手狭な駅南広場を町の顔にふさわしい駅前広場へ整備を行い、バス停の駅前広場への導入により循環バス等利用者の利便性の向上を図り町全体との連携を図る。 ・ 町の玄関としての駅南広場等の整備改善を行い滞留や憩いの駅前空間づくりを行う。 	<p>道路(基幹事業/用地買収、家屋移転補償等)、地域生活基盤施設(基幹事業/自転車駐車場等)、高質空間形成施設(基幹事業/緑化施設等)、循環バス(関連事業/循環バスの運行)</p>
<p>整備方針3(既存の公共施設との連携により人の行き交うまちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業の積極的な住宅形成に関連し、既存の公共施設等をフルに活用できるふれあい交流の町づくり。 ・ 既存の公共施設や特産品直売所等との連携を図り、江北町の特産品や観光案内板等を利用した観光スポットの紹介を行う。また、来町者の増加を図るためのイベントを充実させる。 	<p>まちづくり活動推進事業(提案事業/公共施設や直売所と駅南広場の連携による地場産品のアピールにかかる費用)、地域生活基盤施設(基幹事業/情報板の設置)、関連事業(公共施設や直売所と駅南広場の連携によるイベントに係る費用)</p>
<p>その他</p> <p>イベントの充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備後の駅南広場と既存の直売所との連携を図るために、駅～交流センター間の歩行者天国等も企画し、定例イベントとして、フリーマーケットや地元農産物の直売などの提案により住民参加型を定着させることによる人々の行き交う駅南広場を形成する。 <p>今後の駅南広場の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり協議会のなかで、住民参加によるまちづくりの一環として駅周辺における環境保全や安全対策など継続的な活動も行っていきたい。 	